慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 履歴書 : 浜日出夫 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院社会学研究科 |
| Publication year | 2020 |
| Jtitle | 慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.87 (2019. ) ,p.175- 188 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000087-0175 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 履歴書

## 浜　日出夫（はま　ひでお）

学歴

| | |
|---|---|
| 1972年3月 | 兵庫県立西宮高等学校卒業 |
| 1972年4月 | 大阪大学人間科学部入学 |
| 1976年3月 | 同卒業 |
| 1976年4月 | 大阪大学大学院人間科学研究科修士課程人間学専攻入学 |
| 1978年3月 | 同修了（文学修士） |
| 1978年4月 | 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程人間学専攻入学 |
| 1980年3月 | 同中途退学 |

職歴

（常勤）

| | |
|---|---|
| 1980年4月 | 大阪大学人間科学部助手 |
| 1982年4月 | 新潟大学教養部講師 |
| 1985年12月 | 新潟大学教養部助教授 |
| 1988年4月 | 筑波大学社会科学系助教授 |
| 1999年4月 | 慶應義塾大学文学部助教授 |
| 2001年4月 | 慶應義塾大学文学部教授 |

（塾内役職）

| | |
|---|---|
| 2003年10月 | 慶應義塾大学大学院社会学研究科委員長補佐（2005年9月まで） |
| 2007年10月 | 慶應義塾大学文学部学習指導主任（三田）（2009年9月まで） |
| 2013年10月 | 慶應義塾大学大学院社会学研究科委員長（2015年9月まで） |

（非常勤講師等）

| | |
|---|---|
| 1981年4月 | 大阪産業大学教養部非常勤講師（1982年3月まで） |
| 1987年4月 | 日本学術振興会特定国派遣研究者（カナダ・ヨーク大学）（1988年3月まで） |
| 1991年4月 | 武蔵大学人文学部非常勤講師（1992年3月まで） |
| 1991年12月 | 大阪大学人間科学部非常勤講師（集中講義） |
| 1993年4月 | 明治学院大学社会学部非常勤講師（1993年9月まで） |
| 1993年9月 | 英国暁星国際大学客員研究員（1994年8月まで） |

1995年4月　埼玉大学教養学部非常勤講師（1998年3月まで）
1996年4月　一橋大学大学院社会学研究科非常勤講師（1997年3月まで）
1997年4月　東京大学文学部非常勤講師（1998年3月まで）
1997年4月　早稲田大学教育学部非常勤講師（2004年3月まで）
1998年10月　千葉大学文学部非常勤講師（1999年3月まで）
1999年12月　筑波大学社会学類非常勤講師（集中講義）
2000年9月　武蔵野女子大学現代社会学部非常勤講師（2001年3月まで）
2000年10月　お茶の水女子大学大学院人間文化研究科非常勤講師（2001年3月まで）
2001年4月　お茶の水女子大学大学院人間文化研究科非常勤講師（2002年9月まで）
2001年4月　明治学院大学大学院社会学研究科非常勤講師（2002年3月まで）
2001年12月　奈良女子大学大学院人間文化研究科非常勤講師（集中講義）
2002年4月　お茶の水女子大学大学院人間文化研究科非常勤講師（2002年9月まで）
2002年4月　立教大学大学院社会学研究科非常勤講師（2003年3月まで）
2002年9月　筑波大学大学院人文社会科学研究科非常勤講師（集中講義）
2003年1月　筑波大学博士（社会学）学位論文審査専門委員会委員（副査）
2003年4月　専修大学大学院文学研究科非常勤講師（2004年3月まで）
2004年4月　早稲田大学大学院教育学研究科非常勤講師（2005年3月まで）
2004年9月　東京都立大学人文学部非常勤講師（集中講義）
2006年3月　筑波大学大学院人文社会科学研究科非常勤講師（集中講義）
2007年9月　大妻女子大学人間関係学部非常勤講師（2009年3月まで）
2009年4月　立教大学大学院社会学研究科非常勤講師（2009年9月まで）
2010年7月　東北大学大学院文学研究科非常勤講師（集中講義）
2010年9月　大阪市立大学大学院文学研究科非常勤講師（集中講義）
2010年12月　法政大学大学院社会学研究科非常勤講師（集中講義）
2013年7月　神戸大学大学院人文学研究科非常勤講師（集中講義）
2014年9月　大阪大学大学院人間科学研究科非常勤講師（集中講義）
2015年5月　法政大学博士（社会学）学位論文審査小委員会委員（副査）
2015年9月　大阪大学大学院人間科学研究科非常勤講師（集中講義）
2015年11月　Martin-Luther-Universitaet Halle Wittenberg, Gastprofessor（集中講義）
2015年12月　日本大学大学院総合社会情報研究科博士後期課程最終試験審査委員（副査）
2017年4月　東京通信大学設立準備室主幹研究員（2018年3月まで）
2018年4月　東京通信大学非常勤講師（現在に至る）

学会活動
1976年6月　関西社会学会会員（2014年3月まで）
1978年10月　日本社会学会会員（現在に至る）
1990年6月　日本社会学史学会会員（現在に至る）
1992年6月　関東社会学会会員（現在に至る）

1995年6月　関東社会学会理事（1999年6月まで）
1999年6月　日本社会学史学会監事（2002年6月まで）
1999年7月　三田社会学会会員（現在に至る）
2001年6月　関東社会学会理事（2005年6月まで）
2002年6月　日本社会学史学会理事（2014年6月まで）
2006年11月　日本社会学会社会学評論編集委員（2009年10月まで）
2009年4月　日本社会学会奨励賞選考委員（2009年10月まで）
2009年10月　日本社会学会理事（2012年11月まで）
2010年5月　関西社会学会理事（2013年5月まで）
2015年9月　日本社会学会理事（2018年9月まで）
2017年7月　三田社会学会会長（現在に至る）

社会活動
2003年8月　日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員（2005年7月まで）
2006年1月　日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2006年12月まで）
2007年1月　日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2007年12月まで）
2010年12月　日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2011年11月まで）
2014年1月　日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2014年12月まで）
2015年1月　日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2015年12月まで）

賞罰なし

業績リスト
Ⅰ　著書
1 『社会学』（共著）有斐閣，2007年11月。
第1章「親密性と公共性」，第2章「相互行為と自己」，第5章「メディアとコミュニケーション」，第6章「歴史と記憶」を執筆。
2 『戦後日本における市民意識の形成―戦争体験の世代間継承―』（編著）慶應義塾大学出版会，2008年1月。
序を執筆。
3 『社会理論と社会システム』（共編著）中央法規，2009年3月。
第4章第1節「社会的行為」を執筆。
4 『グローバル・コミュニケーション』（共編著）ミネルヴァ書房，2013年3月。
第3章編集，および「記憶と音楽―把持と予持―」を執筆。
5 『被爆者調査を読む―ヒロシマ・ナガサキの継承―』（共編著）慶應義塾大学出版会，2013年3月。
「はじめに」，および「結びにかえて」を執筆。
6 『希望の社会学―我々は何者か，我々はどこへ行くのか―』（共編著）三和書籍，2013年4月。
第13章「クロックタイムの成立と変容」を執筆。

7 『社会学の力―最重要概念・命題集―』（共編著）有斐閣，2017年6月。
「行為類型」「日常生活世界」「エスノメソドロジー」「集団の拡大と個性の発達」を執筆。

8 『ジンメルの論点』（共著）ハーベスト社，2018年11月。
「信頼」「橋と扉」「銅ではなく信頼（NON AES SED FIDES)」「これでもありあれでもある」を執筆。

Ⅱ　論文

1 「日常」の社会学―日常生活の世界と理解社会学―
『年報人間科学』1，大阪大学人間科学部社会学・人間学・人類学研究室，113–126頁，1980年1月。

2 ピグマリオンとメドゥーサ―A・シュッツの「現象学的社会学」の位置―
『社会学評論』33-1，日本社会学会，64–77頁，1982年6月。

3 シュッツと「意味」の社会学
江原由美子・山岸健編『現象学的社会学』三和書房，91–107頁，1985年4月。

4 パラドクスとしての社会科学―「適合性の公準」をめぐって―
『MAYDAN』4，国際大学中東研究所，4–5頁，1985年4月。

5 日常生活と旅―現象学的社会学―
碓井崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸編著『社会学の焦点を求めて』アカデミア出版会，325–343頁，1986年11月。

6 社会科学における解釈の問題
黒田壽郎編『地域研究の方法と中東学』三修社，42–67頁，1987年6月。

7 シュッツ＝パーソンズ論争
『社会学ジャーナル』14，筑波大学社会学研究室，47–57頁，1989年3月。

8 シュッツの哲学と社会学
徳永恂・鈴木広編『現代社会学群像』恒星社厚生閣，55–67頁，1990年1月。

9 シュッツの人と仕事
西原和久編『現象学的社会学の展開』青土社，14–21頁，1991年12月。

10 社会は細部に宿る―ミクロ―マクロ問題再考―
西原和久編『現象学的社会学の展開』青土社，137–162頁，1991年12月。

11 Alfred Schutz and a New Idea of the Social Sciences
『社会学ジャーナル』16，筑波大学社会学研究室，(49)–(57) 頁，1991年12月。

12 現象学的社会学からエスノメソドロジーへ
好井裕明編『エスノメソドロジーの現実』世界思想社，2–22頁，1992年4月。

13 マクルーハンの銀河系
『情況』33，情況出版，67–81頁，1993年7月。

14 エスノメソドロジーと「羅生門問題」
『社会学ジャーナル』20，筑波大学社会学研究室，103–112頁，1995年3月。

15 社会学の形成―行為の理解―

徳永恂・厚東洋輔編『人間ウェーバー』有斐閣，89–118頁，1995年12月。

16 Ethnomethodology and the Rashomon Problem
The Gyosei Journal 1–2, Gyosei International College in the U.K., 115–120, 1995年12月。

17 ガーフィンケル信頼論再考
『年報筑波社会学』7，筑波社会学会，55–74頁，1996年2月。

18 秩序問題のパラダイム転換—「共通価値」から「信頼」へ—
『社会科学の新しいパラダイム』（大学院重点特別経費研究成果），筑波大学大学院社会科学研究科，119–132頁，1996年3月。

19 マクルーハンとグールド
『メディアと情報化の社会学』（岩波講座現代社会学22）岩波書店，97–112頁，1996年4月。

20 タイムマシンとしての博物館
山下晋司編『観光人類学』新曜社，189–196頁，1996年7月。

21 もうひとつの秩序問題—ジンメルからガーフィンケルへ—
『社会学史研究』18，日本社会学史学会，27–37頁，1996年7月。

22 「地球村」と「テレビの祭日」
『大航海』17，新書館，53–61頁，1997年8月。

23 「共通価値」から「信頼」へ—秩序問題のパラダイム転換—
駒井洋編『社会知のフロンティア』新曜社，82–106頁，1997年11月。

24 エスノメソドロジーの原風景—ガーフィンケルの短編小説「カラートラブル」—
山田富秋・好井裕明編『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房，30–43頁，1998年2月。

25 歴史はいかにして作られるか—博物館の文法・博物館のリテラシー—
『社会学ジャーナル』23，筑波大学社会学研究室，151–162頁，1998年3月。

26 シュッツ科学論とエスノメソドロジー
『文化と社会』1，マルジュ社，132–153頁，1999年10月。

27 Ethnomethodology and the Rashomon Problem
Human Studies, vol. 22, Nos. 2–4, 183–192, 1999年10月。

28 ミクロ社会学とマクロ社会学
碓井崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸編『社会学の理論』有斐閣，314–329頁，2000年5月。

29 記憶のトポグラフィー
『三田社会学』5，三田社会学会，4–16頁，2000年7月。

30 「歴史の社会学」の可能性
『情況』109，情況出版，185–200頁，2000年8月。

31 神と貨幣—ジンメルにおける社会学の形成—
居安正・副田義也・岩崎信彦編『ゲオルク・ジンメルと社会学』世界思想社，170–189頁，2001年6月。

32 歴史と集合的記憶—飛行船グラーフ・ツェッペリン号の飛来—
『年報社会学論集』15，関東社会学会，3–15頁，2002年6月。

33 他者の場所—ヘテロトピアとしての博物館—

『三田社会学』7，三田社会学会，5–16頁，2002年7月。

34　メディアとしてのミュージアム―ふたつの展覧会をてがかりとして―
若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局，109–113頁，2003年4月。

35　ヒロシマを歩く―慶應義塾大学被爆者調査再訪―
『法学研究』77-1，慶應義塾大学法学研究会，237–258頁，2004年1月。

36　モニュメントとしての写真―カンボジア　トゥール・スレン博物館―
『木野評論』35，京都精華大学，95–102頁，2004年3月。

37　The Primal Scene of Ethnomethodology: Garfinkel's Short Story "Color Trouble" and the Schutz-Parsons Controversy
那須壽編『アルフレッド・シュッツによる蔵書への「書き込み」の研究』（平成13年度～平成14年度科学研究費補助金（基盤C）研究成果報告書），145–156頁，2004年3月。

38　エスノメソドロジーの発見
山崎敬一編『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣，2–14頁，2004年5月。

39　危機としての生活世界―シュッツの"discrepancy"概念―
『年報社会科学基礎論研究』3，社会科学基礎論研究会，46–62頁，2004年6月。

40　ヒロシマからヒロシマたちへ―ヒロシマを歩く―
有末賢・関根政美編『戦後日本の社会と市民意識』慶應義塾大学出版会，23–44頁，2005年3月。

41　構築主義と歴史社会学
『社会学史研究』27，日本社会学史学会，47–52頁，2005年7月。

42　集中するヒロシマ・分散するヒロシマ―ヒロシマの継承の可能性―
『日仏社会学会年報』15，日仏社会学会，31–43頁，2005年12月。

43　羅生門問題―エスノメソドロジーの理論的含意―
富永健一編『理論社会学の可能性』新曜社，271–289頁，2006年2月。

44　個人的な自由―『貨幣の哲学』第四章―
岩崎信彦・廳茂編『『貨幣の哲学』という作品』世界思想社，133–156頁，2006年3月。

45　観光のまなざしと風景―「筑波山名物がまの油」の誕生―
柴田陽弘編『風景の研究』慶應義塾大学出版会，217–240頁，2006年4月。

46　信頼
宇都宮京子編『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房，22–23頁，2006年10月。

47　記憶の社会学・序説
『哲学』117，三田哲学会，1–11頁，2007年3月。

48　ヒロシマを擦りとる
山岸健編『逍遙する記憶』三和書籍，183–199頁，2007年6月。

49　Sauntering through HIROSHIMAs
CHEUNG Chan-Fai & YU Chung-chi, eds., Phenomenology 2005, vol. 1, Zeta Books, 107–131, 2007年12月。

50　ジンメルの〈社会化＝個人化〉の社会学

『社会学史研究』30，日本社会学史学会，59–72頁，2008年6月。

51　宗教論―合わせ鏡としての宗教と社会―

早川洋行・菅野仁編『ジンメル社会学を学ぶ人のために』世界思想社，172–190頁，2008年10月。

52　社会変動のミクロロジー―方法としてのベンヤミン―

金子勇・長谷川公一編『社会変動と社会学』（講座・社会変動第1巻）ミネルヴァ書房，201–228頁，2008年11月。

53　The Primal Scene of Ethnomethodology: Garfinkel's Short Story "Color Trouble" and the Schutz-Parsons Controversy

Hisashi Nasu, Lester Embree, George Psathas, Ilja Srubar, eds., Alfred Schutz and his Intellectual Partners, UVK Verlagsgesellschaft mbH, 435–449, 2009年3月。

54　日常知と知識社会学

井上俊・伊藤公雄編『文化の社会学』（社会学ベーシックス3）世界思想社，85–94頁，2009年7月。

55　メディアはメッセージ

井上俊・伊藤公雄編『メディア・情報・消費社会』（社会学ベーシックス6）世界思想社，3–12頁，2009年10月。

56　記憶と場所―近代的時間・空間の変容―

『社会学評論』60-4，日本社会学会，465–480頁，2010年3月。

57　ベンヤミン「一九〇〇年頃のベルリンの幼年時代」

小林多寿子編『ライフストーリー・ガイドブック』嵯峨野書院，112–115頁，2010年8月。

58　行為論の社会学史

早川洋行編『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房，2–15頁，2011年4月。

59　戦争体験の継承と断絶

野上元・福間良明編『戦争社会学ブックガイド』創元社，228–230頁，2012年3月。

60　「無縁社会」現象から考える「絆」

慶應義塾大学文学部『「絆」を考える』慶應義塾大学出版会，149–166頁，2012年3月。

61　異人論の問題構図―小松異人論とジンメル異人論―

山泰幸・小松和彦編『異人論とは何か』ミネルヴァ書房，45–64頁，2015年3月。

62　メディアとしての窓―なぜ窓越しに眺めることは楽しいのか―

町村敬志編『窓がつくる社会，社会がつくる窓』（「窓の社会学」プロジェクト成果報告書），8–23頁，2016年3月。

63　時間と社会

実践社会学研究会編『実践社会学を探る』日本教育財団出版局，18–23頁，2016年7月。

64　メディアとしての窓

実践社会学研究会編『実践社会学を創る』日本教育財団出版局，196–201頁，2016年8月。

65　止まった時計

『法学研究』90–1，慶應義塾大学法学研究会，75–90頁，2017年1月。

Ⅲ　書評

1　仲村祥一著『日常経験の社会学』
　『ソシオロジ』27-2，社会学研究会，100–105頁，1982年9月。
2　橋爪大三郎著『言語ゲームと社会理論』
　『MAYDAN』8，国際大学中東研究所，15頁，1986年3月。
3　今田高俊著『自己組織性』
　『MAYDAN』11，国際大学中東研究所，8–9頁，1987年1月。
4　今田高俊著『自己組織性』
　『社会学評論』41-4，日本社会学会，78–80頁，1991年3月。
5　中村かつろう著『ユートピア産業』
　『エコノミスト』6月30日号，毎日新聞社，104–105頁，1992年6月。
6　矢谷慈國著『生活世界と多元的リアリティ』
　『社会学評論』44-2，日本社会学会，189–191頁，1993年9月。
7　森元孝著『アルフレート・シュッツのウィーン』
　『週刊読書人』2113，読書人，4頁，1995年12月。
8　森元孝著『アルフレート・シュッツのウィーン』
　『ソシオロジ』41-1，社会学研究会，106–109頁，1996年5月。
9　西阪仰著『相互行為分析という視点』
　『現代社会理論研究』8，現代社会理論研究会，260–263頁，1998年11月。
10　西原和久著『意味の社会学』
　『ソシオロジ』44-2，社会学研究会，135–138頁，1999年10月。
11　山田富秋著『日常性批判』
　『週刊読書人』2363，読書人，5頁，2000年11月。
12　荻野昌弘編『文化遺産の社会学』
　『週刊読書人』2454，読書人，4頁，2002年9月。
13　菅野仁著『ジンメル・つながりの哲学』
　『ジンメル研究会会報』9，ジンメル研究会，68–72頁，2004年3月。
14　大石裕著『ジャーナリズムとメディア言説』
　『三田社会学』11，三田社会学会，114–118頁，2006年7月。
15　盛山和夫著『社会学とは何か』
　『社会学評論』63-2，日本社会学会，314–315頁，2012年9月。

Ⅳ　報告書

1　マクルーハンとトロント・コミュニケーション学派
　1991／92カナダ研究出版助成金報告書，カナダ大使館，17頁，1993年2月。
2　メディアとしての博物館（編著）
　1995年度社会調査実習報告書，筑波大学社会学類，259頁，1996年10月。
3　メディアとしての博物館（編著）

平成7年度～平成8年度科学研究費補助金（基盤C）研究成果報告書，259頁，1997年3月。

4　戦争と博物館―スミソニアンと土浦―（編著）

1996年度社会学演習報告書，筑波大学社会学類，131頁，1997年11月。

5　ツェッペリンがやってきた―メディア・イベントと集合的記憶―（編著）

1997年度社会学演習報告書，筑波大学社会学類，195頁，1999年3月。

6「筑波山名物がまの油」の誕生―伝統の創造と観光のまなざし―（編著）

1998年度社会学演習報告書，筑波大学社会学類，206頁，1999年3月。

7　観光のまなざしと伝統の創造（編著）

平成11年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤C）研究成果報告書，206頁，2001年4月。

8　博物館の戦争展示と戦争の記憶の形成に関する実証的研究（編著）

平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤C）研究成果報告書，138頁，2005年5月。

9　戦後世代による原爆被害の記憶の継承に関する社会学的研究

平成19年度～平成21年度科学研究費助成金（基盤C）研究成果報告書，科学研究費助成事業データベース，2010年6月。

Ⅴ　資料

1　現象学的社会学関連文献リスト（共著）

西原和久編『現象学的社会学の展開』青土社，353–377頁，1991年12月。

2　アルフレッド・シュッツ遺稿目録

『社会学ジャーナル』18，筑波大学社会学研究室，(92)–(103) 頁，1993年3月。

Ⅵ　辞典項目

1『新社会学辞典』有斐閣，1993年2月。

「至高の現実」,「自然的態度」,「リアリティ構成」,「リープ」

2『社会学小辞典［新版］』有斐閣，1997年1月。

「日常化」,「日常生活世界」,「ノエシスとノエマ」

3『社会学文献事典』弘文堂，1998年2月。

「マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』」

「マクルーハン『機械の花嫁』」

「マクルーハン『メディア論』」

「ウェーバー『社会学の根本概念』」（共著）

「ウェーバー『理解社会学のカテゴリー』」（共著）

「ウェーバー『音楽社会学』」（共著）

「ウェーバー『宗教社会学』」（共著）

4『情報学事典』弘文堂，2002年6月。

「イニス」,「『グーテンベルクの銀河系』」,「グローバル・ビレッジ」

「パラマウント・リアリティ」,「ホットなメディア／クールなメディア」

「マクルーハン，M.」,「メディアはメッセージ」

5 『岩波小辞典社会学』岩波書店，2003年10月。
「アドルノ」,「暗黙知」,「エスノメソドロジー」,「オートポイエーシス」
「ガーフィンケル」,「観光」,「間主観性」,「感情移入」,「啓蒙主義」
「言語ゲーム」,「現象学的社会学」,「行為」,「功利主義」,「志向性」
「自己言及性」,「自己呈示」,「自省性」,「社会実在論・社会名目論」
「社会統合とシステム統合」,「主観主義」,「主観性・主体性」
「呪術からの解放」,「シュッツ」,「創発特性」,「多元的現実」
「知識社会学」,「道具的理性」,「パターン変数」,「物象化」
「プラグマティズム」,「ホモ・エコノミクス」,「ホルクハイマー」
「マンハイム」,「民俗学」,「柳田国男」,「理念型」,「ルーマン」
「ルサンティマン」
6 『社会学事典』丸善，2010年6月。
第13章「歴史と記憶の社会学」編集
「歴史への連累」,「ノスタルジア」
7 『現代社会学事典』弘文堂，2012年11月。
「多元的現実」,「知識社会学」,「ベッカー」
8 『社会学理論応用事典』丸善，2017年7月。
第6章「表象と文化」共編
「歴史と記憶の社会学」

Ⅶ　翻訳

1 フィリップ・ペティット「生活世界と役割理論」
『現代思想』6–13，青土社，1978年10月。
2 アルフレッド・シュッツ『現象学的社会学』（共訳）
紀伊國屋書店，1980年2月。
3 リチャード・ローティ『哲学の脱構築』（共訳）
御茶の水書房，1985年7月。
4 アルフレッド・シュッツ『生活世界の構成―レリヴァンスの現象学―』（共訳）
マルジュ社，1996年5月。
5 リチャード・ローティ『プラグマティズムの帰結』（共訳）
ちくま学芸文庫，2014年6月。

Ⅷ　その他

1 訳者あとがき
アルフレッド・シュッツ『現象学的社会学』紀伊國屋書店，352–359頁，1980年2月。
2 阪大社会学の刻印
『大阪大学社会学研究会ニューズレター』1，大阪大学社会学研究会，3頁，1993年8月。
3 イギリス社会学会報告

『筑波社会学ニュース』15，筑波社会学会，10–12頁，1994年4月。

4　巻頭言

『社会学ジャーナル』20，筑波大学社会学研究室，1–2頁，1995年3月。

5　日本の大学，イギリスの大学

『筑波フォーラム』40，筑波大学，5–7頁，1995年3月。

6　三学期制を問う

『筑波學生新聞』127，筑波大学学生新聞会，3頁，1996年4月。

7　「人間ウェーバー」—出会いから二〇年

『書斎の窓』454，有斐閣，44–48頁，1996年5月。

8　甲田先生の思い出

『大阪大学人間科学部1996』，大阪大学人間科学部，25頁，1996年7月。

9　キティ・ジェノヴィーズの死

『ういーる』19，筑波大学厚生会，5頁，1997年3月。

10　博物館のリテラシー

『大航海』16，新書館，12–13頁，1997年6月。

11　“脱国民化”するテレビ

『毎日新聞』（東京）1997年9月14日。

『毎日新聞』（大阪）1997年10月4日。

12　鼎談：社会理論としての現象学的社会学（浜日出夫・李晟台・西原和久）

『現代社会理論研究』7，現代社会理論研究会，77–94頁，1997年11月。

13　編集後記

『年報社会学論集』11，関東社会学会，259–260頁，1998年6月。

14　NON AES SED FIDES

『ジンメル研究会会報』3，ジンメル研究会，1–4頁，1998年6月。

15　ジンメル〈宗教社会学〉の特質

『ジンメル研究会会報』4，ジンメル研究会，19–21頁，1998年10月。

16　編集後記

『年報社会学論集』12，関東社会学会，274–275頁，1999年6月。

17　社会学理論と「知の反省」

『三色旗』622，慶應義塾大学通信教育部，7–10頁，2000年1月。

18　総評

『第20回社会学合同セミナー報告書』，71–73頁，2000年1月。

19　シンポジウム（2）

『EMCA研究会Newsletter』11，エスノメソドロジー会話分析研究会，3–4頁，2000年3月。

20　熱い博物館・冷たい博物館

『三田評論』1028，慶應義塾，29頁，2000年10月。

21　総評

『第21回社会学合同セミナー報告書』，1–4頁，2001年1月。

22　SessionI総括［複数の身体性／身体の複数性］
　黄順姫編『20世紀におけるナショナリズム，スポーツ，身体文化』（国際会議NSBC2000報告書），筑波大学社会科学系，51–52頁，2001年3月。
23　『貨幣の哲学』のふたつの貌
　『ジンメル研究会会報』6，ジンメル研究会，30–31頁，2001年3月。
24　第50回大会の開催に向けて
　『関東社会学会ニュース』99，関東社会学会，1頁，2002年2月。
25　ジンメルと日本の社会学
　『ジンメル研究会会報』7，ジンメル研究会，1–2頁，2002年3月。
26　テーマ部会C「文化の社会学の可能性」部会趣旨
　『関東社会学会ニュース』100，関東社会学会，14頁，2002年5月。
27　第50回大会を振り返って
　『関東社会学会ニュース』101，関東社会学会，3頁，2002年11月。
28　自由報告部会報告概要（第4部会　事件・問題の記憶・意識）
　『関東社会学会ニュース』101，関東社会学会，7–8頁，2002年11月。
29　序にかえて（特集　記憶の社会学）
　『現代社会理論研究』12，現代社会理論研究会，1–2頁，2002年11月。
30　第51回大会の開催に向けて
　『関東社会学会ニュース』102，関東社会学会，1頁，2003年2月。
31　社会学ってなんですか？
　『三色旗』659，慶應義塾大学通信教育部，1頁，2003年2月。
32　第51回大会を振り返って
　『関東社会学会ニュース』104，関東社会学会，3頁，2003年11月。
33　いま気になっているモノ
　『OPEN』22，慶應義塾，6頁，2004年5月。
34　編集後記
　『年報社会学論集』17，関東社会学会，251–252頁，2004年8月。
35　全体総括―山を下りて―
　『高野山カンファレンス2004　デュルケーム＝ジンメル合同研究会報告書』，ジンメル研究会デュルケーム／デュルケーム学派研究会，71–72頁，2005年3月。
36　編集後記
　『年報社会学論集』18，関東社会学会，315頁，2005年8月。
37　報告要旨　「筑波山名物がまの油」の誕生―伝統の創造と観光のまなざし―
　現代伝承論研究会編『現代都市伝承論』岩田書院，350頁，2005年10月。
38　編集後記
　『社会学史研究』28，日本社会学史会，161頁，2006年6月。
39　戦後市民意識研究セッション（Ⅰ）「戦争体験と戦後日本社会」
　『慶應義塾大学21世紀COEプログラムNews letter』9, 13頁，2006年12月。

40 テーマセッション「時間と社会」趣旨
『関東社会学会ニュース』114，関東社会学会，4頁，2007年2月。
41 ジンメル人格論の展開
『ジンメル研究会会報』12，ジンメル研究会，24–26頁，2007年3月。
42 編集後記
『哲学』117，三田哲学会，267頁，2007年3月。
43 四六のがま
『三田評論』1102，慶應義塾，97頁，2007年6月。
44 編集後記
『社会学史研究』29，日本社会学史会，121頁，2007年6月。
45 教員紹介
『三色旗』722，慶應義塾大学通信教育部，10頁，2008年5月。
46 座談会：新しいスタンダードを求めて―社会学教育とテキスト『社会学』をめぐって―（今田高俊・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志）
（上）『書斎の窓』575，有斐閣，2–13頁，2008年6月。
（下）『書斎の窓』576，有斐閣，2–16頁，2008年8月。
47 学生時代の必読書を教授が指南
『慶應塾生新聞』434，慶應塾生新聞会，2面，2008年7月。
48 構築主義批判・以後
『三田社会学』13，三田社会学会，1–2頁，2008年7月。
49 編集後記
『社会学評論』59-3，日本社会学会，2008年12月。
50 社会学はじめの一歩
『吉田民人先生の想い出』，76頁，2010年3月。
51 特集に寄せて
『社会学評論』60-4，日本社会学学会，462–464頁，2010年3月。
52 編集後記
『三田社会学』16，三田社会学会，2011年7月。
53 社会学論文作成法
『三色旗』761，慶應義塾大学通信教育部，28頁，2011年8月。
54 編集後記
『三田社会学』17，三田社会学会，2012年7月。
55 執筆ノート『被爆者調査を読む―ヒロシマ・ナガサキの継承―』
『三田評論』1168，慶應義塾，92頁，2013年6月。
56 編集後記
『三田社会学』18，三田社会学会，2013年7月。
57 メディアとしての窓―なぜ窓越しに眺めることは楽しいのか―
YKK AP株式会社窓研究所HP（http://madoken.jp/research/window-sociology/1624/）

2017年2月。

58　窓と扉

『ジンメル研究会会報』22，ジンメル研究会，24–28頁，2017年3月。

59　メディアとしての窓―なぜ窓越しに眺めることは楽しいのか―

『窓と建築をめぐる50のはなし』エクスナレッジ，134–135頁，2017年9月。

60　メディアとしての窓

『窓学アーカイブvol. 3（2014–2016）』YKK AP株式会社窓研究所，74–75頁，2018年3月。

61特集「サバイバーの社会学」に寄せて

『三田社会学』23，三田社会学会，1–2頁，2018年7月。